

原山佐保子

(尚美音楽短期大学 3 期生／クラリネット専攻)

長野県長野市生まれ。尚美音楽短期大学（現 尚美学園大学）卒業、赤松賞受賞。東京コンセルヴァトアール尚美（現 ミュージックカレッジ専門学校）音楽社会研究科並びにディプロマコース修了。第 3 回 YAMAHA 主催、新人演奏会出演。第 1 回、第 5 回ビュッフェクラシカル社主催「欧日音楽講座」メンバーに選ばれ、ギィ・ドゥプリュ氏に師事する。

室内楽を中川良平氏に、クラリネットを和田京子、小林純一、武田忠善、横川晴児、故・大橋幸夫の各氏に師事。

宮地楽器管科講師。

シエナ・ウインド・オーケストラ所属。



(C)188.CORPORATION + 500G

卒業後、当時発足した楽団、シエナ・ウインド・オーケストラのオーディションを受け、入団し、クラリネット奏者として活動して参りました。

私はそもそも中学生の時に、将来の夢という課題の作文に、「将来は演奏する人も、聴く人も、みんなが笑顔になれるようなコンサートに出たい。」と書いたのを覚えています。私は当時、全国大会に出場するような吹奏楽部に入っており、音楽大学を目指したいと思っていました。心配した両親の反対にあい、浪人はしないという約束で受験しましたが、志望した時期が遅かったのもあり、志望校に受からず、その大学と同じ師匠が教えていらっしやった尚美短大に入学することを決めました。

入学後、ご師事いただいた先生のお導きで、短大卒業時に名誉ある赤松賞をいただき、卒業式で保護者の皆様も聴いていらしての代表演奏は心に残るよい思い出です。

その後、研究科からディプロマコースへ進み、短大卒として初めて最年少で、在京各音大の卒業生代表が集うヤマハ新人演奏会への出演、ビュッフェクランポン主催欧日音楽講座でギィ・ドゥプリュ先生にご指導を仰いだり、海外の有名なプレイヤーの方の公開レッスン、コンクールへの出場など、様々な貴重な経験を積ませていただきました。

短大入学時はまだ出来て三年目の新しい学校でしたので、学校の先輩後輩の繋がりはけし多くはなかったのですが、外部での活動でお知り合いになった先輩や友人のお口添えも頂き、所属楽団のほかにもオーケストラや、アンサンブルなどの室内楽のお仕事も経験することができました。何にも代えがたい繋がりと感謝しております。

現在の所属楽団であるシエナ・ウインド・オーケストラは、吹奏楽というジャンルの管楽器のオーケストラです。プロとしてよい演奏をするのはもちろん、吹奏楽は何でもアリなんだという自由なコンセプトで活動する楽団でしたので、現在もホールいっぱいに笑顔と感動があふれるコンサートを繰り広げており、奇しくも中学生の時の夢がシエナという楽団で叶ったこととなりました。今まで、本当にたくさんの経験をさせていただきました。特に佐渡裕氏が首席指揮者に就任された頃から後は、国内外へのコンサートツアー、レコーディング、音楽祭、TV出演など、楽団としての華やかな活動の数々を経験させていただきました。

音大に進んでよかったことは、何よりも諦めが悪くなったことと、根気がついたことでしょうか。そんなこと、と思われるかも知れませんが、今の時代に諦めず、師匠に言われたことを信じて、こつこつと何時間も練習するという、まるでアスリートのトレーニングにも通じるような積み上げを学ぶことができ、それを人に伝えるスキルを身に着けられるのは、貴重な事ではないでしょうか。自分自身を表現していくことが一番できそうで出来ないことですし、世界が広がったという実感を覚えました。これは音楽以外の世界に於いても、大変なスキルになることと思います。尚美の卒業生の方は皆さん、音楽でも、音楽以外の場でも、素晴らしい実現力で自分のやりたいことをやってらっしゃる人がたくさんいます。人と自分が違っても、自分の世界に自信を持っているからみんな仲がいいのも尚美の特徴だと思います。

私も、いよいよ楽団を卒団する日が見えてきました。今まで続けてこられたのは、学生時代からの沢山の方の支えがあったからと、感謝して日々過ごしています。今はもうあの短大の上福岡キャンパスはありませんが、学生時代の練習しまくった思い出と、切磋琢磨し、楽しかった友との記憶は私の人生の宝物であり、今もこれからも私の原点です。